

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2020年 2月 8日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」石川県庁前校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		適切である	
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		決められた人数配置を行っている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		刺激少ない室内環境を整えている。	事業所内はバリアフリー化されているが立地が2階にある為、連絡のあった時に階段であることを伝えている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		毎日の清掃や片付けを行い、環境の保全に努めている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		定期的に情報共有のミーティングを行い支援の見直しを行っている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			今回のアンケートを職員内での周知徹底し業務改善につなげる。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			事業所内で評価結果を周知するとともに、評価・改善内容について会社に集約しホームページにて公開する。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		第三者評価は現在行っていない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		会社の発達支援研究所が職員の資質向上のための初任者研修・定例研修を実施している。市や県で開催される研修にも参加している。	
適切な支援の	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		見学時にアセスメントをとり子どもの特性や性格等も踏まえて支援計画を行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		会社で決められたアセスメントツールを使用している。	

提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		発達支援においては日々保護者様にアドバイスを送り、今後の支援目標について話し合いを重ねている。家族支援においては相談員と連携をしながら、必要があればその都度設定していく。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画に沿って日々の状況に合わせて支援の内容を考えて提供している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児発管と担当指導員で話し合う事もあるが、定期的なミーティングで全職員でも立案している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々の発達や状態を踏まえて柔軟な対応を行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		個別療育であるが、集団にもつながるための支援も実施、こどもの状況に応じて不定期に行っている小集団のSSTに参加してもらっている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼にて必要な情報共有、連携の確認を行う。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼でその日の状況の確認、次の日の必要事項の確認している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を取り、支援の検証・改善につなげている。	
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的モニタリングを行い、支援計画の見直しをすることを定めている。	
	関 係 機 関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議に参加している。

や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	②	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて情報の共有や連携を行っている	
	③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				該当者なし
	④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				該当者なし
	⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者からの要望がある時は行っている。	
	⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者からの要望がある時は行っている。	
	⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて情報のやり取りやアドバイスを受けています。	
	⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		集団イベント時に兄弟児と関りはあるが、プログラムとしては行っていません。
	⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		参加はしてはいないが、機会があれば参加していきたい。
	⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		その時々々の状態把握の為に、日頃より情報のやり取りを行い、課題の共通理解に努めている。	
	⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		家族のアドバイスや相談に乗ることはあるが家族支援プログラムとして明確には行ってない。
保 護 者 へ の 説 明	⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明をしている。	
	⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時やモニタリング後に作成した支援計画について説明し、同意を得ている。	

責 任 等	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて保護者様の相談に応じ、今後の対応の検討を話し合っている。	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		回数は多くないが、ママカフェを開催し保護者様同士での交流の場を設けている	
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		迅速に対応している。	
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ブログに児童の活動の様子や成長の様子を綴っている。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵付きの場所に保管、守秘義務の徹底。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚的ツール等活用を行っている。	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の方が参加できるようなイベントは実施していないが、パンフレット設置時の挨拶を行い定期的な交流を図ったり、地域からの紹介を受ける事もある。
非 常 時 等 の 対 応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各種マニュアルを準備、想定を踏まえた訓練を行っている。	
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		非常災害に対する定期的な訓練を行っている。	
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		アセスメント時に確認し、記入している。	
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		運営上、該当なし。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		全国にあるきらりの事業所でのヒヤリハットも共有を行っている。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		1年に1度以上研修を行っている。また、日々の職員間の話し合いでお互いに確認を行っている。	

④7	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している</p>	○	<p>運営規定や身体拘束についても重要事項説明書に明記し、該当する児童がいれば対応していく体制を整えている。</p>	
----	---	---	--	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。